

ブロック会議に参加して

北海道支部長 深瀬 和文

毎年恒例の北海道東北ブロック会議が福島県郡山市で行われました。

北海道からは自分と事務局長の松田さんが参加して色々な議題について話し合いました。

まず、各支部の状況と問題点を話し合わせ、北海道からは3号研修と絆サロンについて発表させてもらいました。



ここで各支部の活動を紹介したいと思います。青森は支部を結成したばかりなので会員の拡大に動いています。岩手支部はパートナーシップの助成を受けて痰吸引の研修を行っています。秋田支部は地域交流を中心に動いています。宮城支部は療養支援者に対してベッドから車いすへの移乗を体験するという勉強会を行っています。山形支部は県内を3地区に分けて井戸端会議を行っています。福島支部は訪問相談会を活発に行っています。又、入院時コミュニケーション支援事業の拡大を働き掛けています。このように北海道東北ブロックは活発な運動を行っているという事を肌で感じました。



ここからブロック会議で出た最新の医療を説明したいと思います。
2015年 ALS 及び前頭側頭型認知症（FPD）関連の、36 遺伝子中 10 の遺伝子が両者に共通で、別の疾患と思われていた物が同じスペクトルの一部であると認識されるようになり、さらに ALS 関連遺伝子は 5 月時点で 40 を超え、ALS の病態解明が進む中で前頭側頭型認知症との共通原因、共通遺伝子の研究が凄まじいスピードで進んでいます。即ち簡単に言うと、数ある認知症の中での一部が ALS 同じ遺伝子を持っている事で、ALS の解明が凄まじい勢いで研究が進んでいる事を言っています。但し、ALS は認知症と同じ因子を持っているだけで認知症にはならない事を付け加えたいと思います。それと完全な閉じ込め症候群は日本では 10% です。それも技術開発によって無くなる方向に向かっています。

これから話すことは、もっとも最新の情報です。TDP-43 のたんぱく質が正常な時は細胞の核に出入りすることが出来ますが、何かの原因で TDP-43 にくっついてプリオン様ドメインが絡みついて、核に入れられない事によって細胞が壊死をしてしまう事が分かりました。この絡みつきを治す事によって壊死をした細胞が無くなる事で病気の発症を抑える事が出来ます。

最後に、去年アイスバケツチャレンジの寄付が全世界で起こった事で研究費が膨大に集まった事により、研究速度が非常に速くなっている事をお伝えして、話を終わりたいと思います。

